

## インターバンクの声（2015年5月18日）

金曜日の東京市場では、119円台前半で寄り付いたドル円が日経平均の上昇に伴って119円台の半ばへと続伸、その後ロンドン市場に入っても日銀の追加緩和策をめぐる一部報道を材料に円売りが続き、120円到達もありそうな勢いも感じられた。しかし、この勢いを止めただけでなくドル売りに反転させたのが、最近目立つ低調な米経済指標の発表だった。4月の鉱工業生産の予想に反するマイナス結果に始まり、その後の5月のミシガン大学消費者信頼感指数も前年10月以来となる低水準、とりわけ景気現況指数が100を割り込む99.8、消費者期待指数も81.5まで低下したのはショックだった。若干の救いは、今後の期待インフレ率が少し上昇したことだったが、この部分をじっくり見るような余裕はなかったはずだ。今週も数多くの米経済指標の発表が予定されているが、注目は前回4月の連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨の発表だろう。所詮は118円台半ばから120円台前半のレンジ相場との見方が主流なのだろうが、上下どちらも現状の水準から大きく離れているわけではなく、一旦ブレイクした時には、大きく相場が動き出しそうな気もする。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。